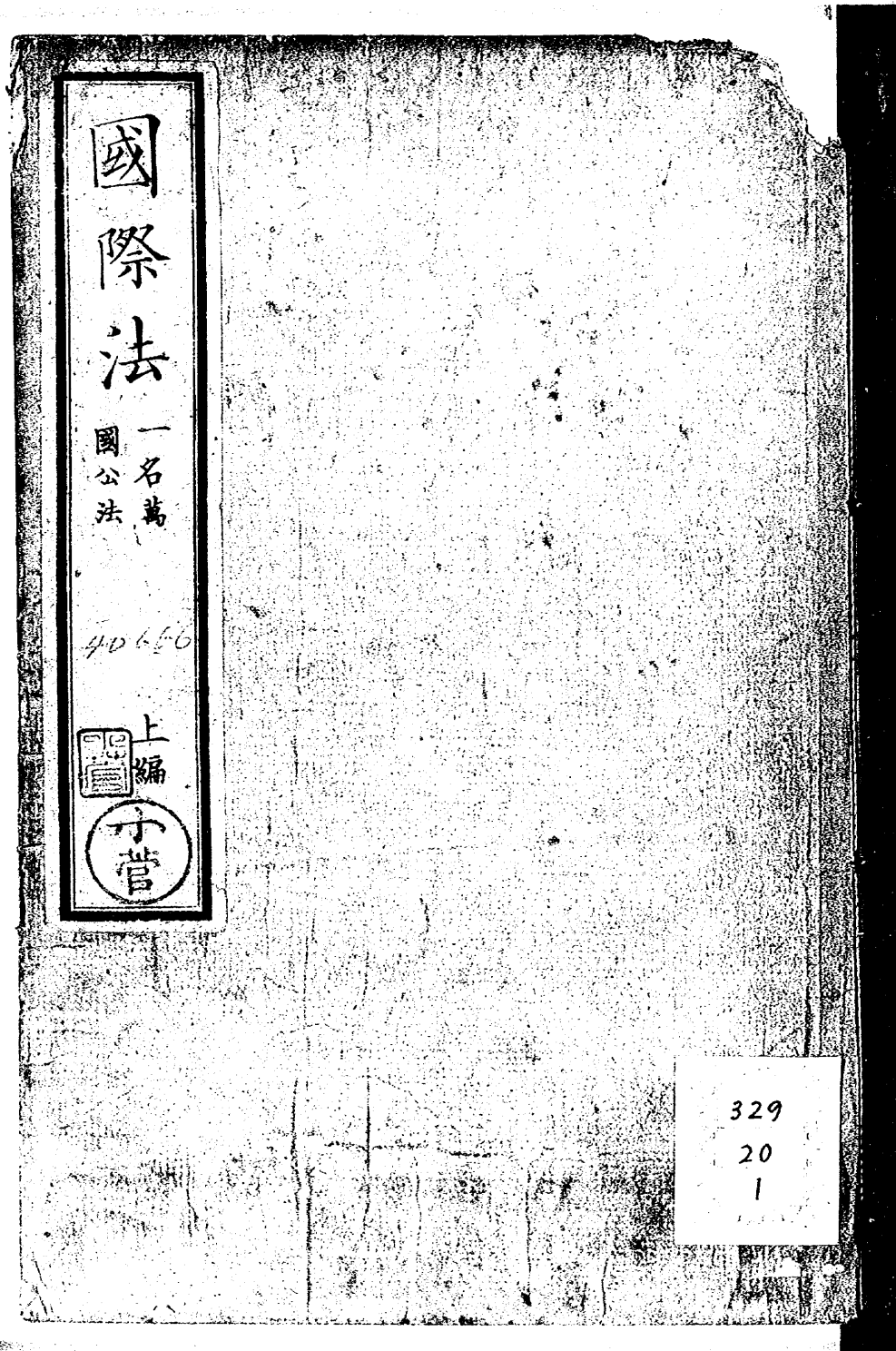


B 9

1367



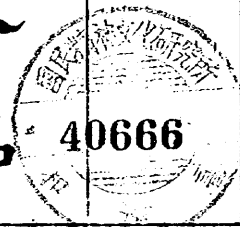
明治六年三月

箕作麟祥譯

國際法

一名萬國公法

弘文堂藏



例言

一 此書ハ米利堅エールコルレシ學館ノ教頭
ヲドール、ウールシー氏ノ著ハス所ニシテ千
八百七十二年同國紐育鏤行ニ係リ原名イン
トル子シヲナル、ロウト云ヒ各國交際上ノ通
理條件ヲ記セシ書ナリ而ハ此學科ノ書ハ曩
時米人丁健良氏漢文ヲ用ヒ同國ノ人惠頓氏
ノ書ヲ譯シテ始メテ命スルニ萬國公法ノ名
ヲ以テシ其後又我カ西氏荷蘭人畢洒林氏ノ
口授ニ成ル稿ヲ上梓シ亦萬國公法ト題ス故

明治六年三月

箕作麟祥譯

國際法

一名萬國公法

弘文堂藏



重刊
海峽

例言

一 此書ハ米利堅エールコルレシ學館ノ教頭
ヲドール、ウールシー氏ノ著ハス所ニシテ千
八百七十二年同國紐育鑲行ニ係リ原名イン
トル子シヲナル、ロウト云ヒ各國交際上ノ通
理條件ヲ記セシ書ナリ而ハ此學科ノ書ハ曩
時米人丁健良氏漢文ヲ用ヒ同國ノ人惠頓氏
ノ書ヲ譯シテ始メテ命スルニ萬國公法ノ名
ヲ以テシ其後又我カ西氏荷蘭人畢洒林氏ノ
口授ニ成ル稿ヲ上梓シ亦萬國公法ト題ス故

ニ其名廣ク世ニ傳布シテ恰モ此書普通ノ称
タルカ如シ然レモ仔細ニ原名ヲ考フル時ハ
國際法ノ字允當ナルニ近キカ故ニ今改メ國
際法ト名クト雖モ先輩ノ命題余カ管見ノ全
ク空フス可キニ非ス故ニ萬國公法ノ字ヲ存
シテ此書ノ一名トス

一 此書上篇第一條ヨリ第三十五條ニ至ル迄ハ
創メテ此學ヲ講シタル荷蘭人虎哥先生ヲ首
トシ其他各國ノ碩學大儒輩此書ノ原因ヲ說
明スル所タリ故ニ其理論頗ル高妙ニ涉リ且

能ク其義ヲ了解スルモ今日ノ實際ニ必シモ
益アリトス可キニ非ス因テ今右數條ヲ畧去
シ筆ヲ上篇第一章第三十六條ニ起ス者ハ現
今交誼通商ノ實際ニ處シテ必用ニ充ルヲ期
スルノミ然レモ既ニ此書ヲ讀ミ又其理論ヲ
知ラント欲スル者ノ為メ不日必ス其理論ノ
數條ヲ譯シ世ニ公ニセントス是所謂專務ヲ
急ニスルノ微意ナリ

一 此書ノ類本歐米各國ニ數種アリ然レモ或ハ
繁冗ニ過キ或ハ簡畧ニ失シ偶其中ヲ得ル者

ハ論說陳腐ニシテ今日實際ノ用ニ供スルニ足ラサル者多シ然ルニ此原本ハ體裁偏倚セス其說モ亦新規ニシテ特ニ宜シキヲ得タル者トス是則テ余カ此書ヲ譯シテ上梓スル所以ナリ

一 此書行文文中或ハ直譯或ハ意解譯法一定セザル者ハ原文ノ意ノ解シ易キニ從ヒ讀者ヲシテ詳カニ其義ヲ了解セシメント欲スルカ為メナリ且ツ文中地名人名官名物名等ハ左右傍ニ左ノ記號ヲ附シ以テ之ヲ分別ス則チ右

傍ニ——此ノ如キハ地名同シク——此ノ如キハ人名左傍ニ——此ノ如キハ官名同シク——此ノ如キハ物名ナリ

一 此書ハ歐米諸國ニ於テ高尚ノ學科ニ屬スルヲ以テ讀者先ツ地理歴史等ノ學ヲ講究シ然ル後此學ニ從事ス是ヲ以テ其原文ニ於ケルモ亦易々ニ非ザルナリ故ニ今此書ヲ讀者ハ畧各國ノ形勢事情ヲ知ルニ非ザレハ文義ヲ了解シ難ク加フルニ余公務ノ餘纒カニ稿ヲ草スルニ過キザレハ適當ノ雅言ヲ撰ム

ニ暇無ク殊ニ原文ノ意ト相齟齬センコト恐
レ或ハ鄙語野言ヲ填メテ文意ヲ通スル所ア
リ覽者其レ之ヲ恕セヨ

明治六年二月

箕作麟祥 識

國際法目錄

上編 國ノ要權及ヒ平和ノ時ノ權利義務

第一章 國ノ不羈ノ權及ヒ他國ノ内事

ニ關涉ス可カラサル義務及ヒ例外ノ

規則 從第三十六條
至第五十一條

第二章 各國土地ヲ有スルノ權及ヒ掌

物ノ權 附海河川渚ニ付キ專有ノ權ヲ

拋棄シタル事 從第五十二條
至第五十八條

第三章 各國交通ノ權 附國內ニ在留ス

ル外國人ノ權利義務 從第五十九條
至第八十一條

第四章 各國交通ノ法則及通使ノ事

從第八十二條至第九十六條

第一款 各國交通ノ法則

第二款 各國通使ノ事

第五章 各國結約ノ權 從第九十七條至第一百九條

下編 戰時ノ國際法例

第一章 各國自護ノ權及交戰奪獲ノ

事並ニ和議條約ノ事 從第一百十條至第一百十四條

第一款 交戰ノ事

第二款 交戰ノ法則

第三款 内亂、賣売トノ交戰、海盜、奴隸

ノ賣買

第四款 奪獲、奪回土地ノ侵掠及ニ克復

第五款 停戰及ニ和議

第二章 交戰國ト局外中立國トノ交際

從第一百五十五條至第一百二十條

第一款 局外中立國ノ權利及ニ義務

第二款 中立國貿易ニ付テノ權利及

と義務

跋言 國際法ノ短處、權力、進歩及ヒ其將

來ノ景狀 從第
二百三條
至第
二百十條

國際法目錄終



國際法 一名萬國公法

箕作麟祥 譯

上編

國ノ要權及ヒ平和ノ時ノ權利義務

第一章

國ノ不羈ノ權及ヒ他國ノ內事ニ關涉ス
可カラザル義務并ニ例外ノ規則

第三十六條

國トハ疆界ヲ限リ其地内ニ住居スル人衆ノ相
合セシモノヲ指シ云ヒ其旨趣ハ公道ニ基キ自

國トハ何ゾ

盜賊ノ群集
ハ國ト稱ス
可カラス

カラ法ヲ立テ律ヲ制シテ永ク存續スルニ在リ
而シテ此國ト彼國トノ交際ヲ通シ條約ヲ結フ
具ヲ目稱シテ政府ト云フ
譬ヘハ一群ノ盜賊ト雖モ亦自己ノ法則ヲ定メ
制度ヲ立ツルヲ得ルナリ然レモ盜賊ハ其互ニ
ニ相交リ相護スル皆一時私慾ノ目的ニ出テ其
志ス所全ク公道ニ背ケルヲ以テ之ヲ國ト稱ス
可カラス然ルニ盜賊ノ群集若シ盜奪ノ業ヲ止
ル時ハ變シテ國ヲ為スヲ能ハサルニ非ス故ニ
往時亞非利加洲ノ^北諸國ハ海盜ノ群集ニ

シテ真ニ之ヲ國ト稱ス可カラサルノ議論アリ
シカ數百年ヲ經テ次第ニ開化ニ進ミ漸ク公道
正理ヲ辨明セシカ故ニ方今ハ之ヲ一國ト看做
シ他國ヨリ交ヲ結フニ至レリ而シテ又古羅馬
ノ將ボムベイノ兵カヲ以テ討滅シタル^シ
ア^及ヒイソウリアノ海盜ハ當時其勢ヒ強大ニ
シテ殆ト國ト稱スヘキ程ナリシカ其盜奪ノ業
ヲ止ムル^一無ク劫掠物ヲ貯蓄シ以テ自己ノ黨
類ヲ護スル為メニ相群集シタル者ナレハ是等
ハ敢テ國ト稱ス可カラス

第三十七條

抑モ國ト稱スル者ノ國ヲ為ス要領ハ真ニ他國ト畫分シテ宛モ世界中唯全ク一國タルカ如クナル可ク而シテ其領地内ニ於テ法律ヲ立テ其住民ヲ統御シ其制度ヲ定ムル等ノ全權ヲ有スベシ故ニ今之ヲ概言スル時ハ各國ノ交際ニ於テ此國固ト彼國ノ内事ニ關涉スルノ權無ク若シ或事ニ依リ此國ヨリ彼國ニ關涉スルノ權アラハ又同一ノ事ニ就キ彼國ヨリ此國ニ關涉スルノ權無シトス可カラス又此國ノ權彼國ノ權

ニ勝リ或ハ彼國ノ權此國ノ權ト異ナルノ理無カル可シ是ヲ以テ考フレハ各國上帝ノ意ニ隨ヒ各自ニ其地ヲ分領シテ一國ヲ為サント欲スルニハ必ス自主ノ權不羈ノ權同等ノ權無キ能ハス而シテ各國此三權ヲ保持スルハ則チ互ニ其存全ヲ得ルノ基礎ニシテ此權一モ缺ク可カラサル者ナリ

自主ノ權トハ自由ニ我カ國權ヲ行フヲ云フ蓋シ國權ヲ行フハ他國ノ交際ヲ通シ條約ヲ結ビ及ヒ自國ノ人民ヲ統御スルノ權力ニシテ其邦

内ニ於テ之ヲ最上ノ權トシ其人民之ヲ遵奉セザル可カラサル者トス
不羈ノ權トハ自主ノ權ノ裏面ニシテ其理恰モ相同シク自國ノ權利ヲ行フニ他國ノ為メニ抑制セラレサルノ權ヲ云フ譬ヘハ今甲ノ國ニテ戰ヒテ為シ或ハ其國ニテ法律政體有司等ヲ變シ若クハ富國ノ策ヲ設ケ藩屬地ヲ關キ版圖ヲ廣メ又ハ乙ノ國ト相合シ或ハ條約ヲ結フ等ノ事ヲ為スト雖モ丙ノ國敢テ之ヲ妨ケ關涉スルノ道理ナキカ如シ是ヲ名ケテ不羈ノ權ト云フ

同等ノ權トハ尊貴名譽ノ相同シキヲ云フニ非ス又朝廷ノ禮式ニ關シテ等位ノ同シキヲ云フニ非ス又必スシモ他國ト同一ナル貿易政體上ノ特利ヲ有スルヲ云フニ非ス唯此國彼國ト同シク自主ノ權ヲ有シ互格ノ權利ヲ有スルヲ云フ蓋シ此同等ノ權ハ自主ノ權ヨリ起ル所ニシテ苟モ最上ノ主權ヲ有スル時ハ固ヨリ權ニ多少ノ異無キ理ナルカ故ニ真ニ主權ヲ有スル各國ハ其權必ス互ニ同等ナラサルヲ得ス國ノ大小強弱ニ依リ國ノ主權ニ差異無キハ敢テ言フ

各國聯合
ヲ此三權ノ
素クル一ア
リ

ヲ待タサル所ナリ
國ハ其自己ノ意ニ依リ此三權ノ一部ヲ棄テ或
ハ其獨立ヲ變シテ他國ト合スルヲアリ而メ聯
合シタル各國ハ必ス互ニ其自主ノ權ト不羈ノ
權トヲ多少拋棄シテ真ノ獨立國タル体裁ヲ失
フモノナリ何トナレハ聯合シタル各國既ニ聯
合ノ後ハ相互ノ契約ニ依リ其獨斷ヲ以テ外國
ト和ヲ講シ戰ヲ交エルノ權ヲ有スルヲ能ハサ
ルニ因ル故ニ此聯合國中若シ互ヒニ爭鬭ヲ生
スル時ハ之ヲ審判スベキ一ノ統括局ヲ設クル

外國ノ守護
ヲ受クルニ
因リ此三權
ヲ失フ事

モノアリ古ハ希臘ノアテア又聯合列國ヲ更
ニ緊密ニ連結シ其各國ノ權ヲ限制シテ外國ノ
交際及ヒ治國ノ主權等之ヲ總括ノ政廳ニ委ス
ルモノアリ米利堅聯邦ノ如キヲ云フ又聯合ノ契約甚ク緩
ニシテ其各國ニ他國ト盟ヲ結ビ或ハ互ニ戰鬭
ヲ為スノ自由ヲ許シ唯爭ヒノ種類ニ因リ之ヲ
裁判スハキ總會ヲ設クルモノアリ日耳曼列國ノ如キヲ云
外國ノ守護ヲ受ケル國ハ全ク主權ナキニ非ス
ト雖モ亦十分ノ主權アルニ非ス譬ヘハ往時魯
奧ノ守護ヲ受ケタルラコウノ共和政治國英

國際法上ニ
テ論スル所
ノ主權

國ノ守護ヲ受ケタル^イ以^ニ阿尼諸島土耳其ノ守護
ヲ受ケタルモルダウ^ウアラキ^スアセル^スウ^スア^ス埃及
及^セ撒^ラ丁^ラノ守護ヲ受ケタルモナコ^スノ如シ
國際法ノ論スル所ニ於テハ外國ト交際ヲ通シ
條約ヲ結フ權利ヲ保持シタル國ニ非サレハ主
權アル者トセス故ニ米利堅各部ノ如キハ外國
ト條約ヲ結ビ又ハ外國ノ朝廷ニ使節ヲ送り或
ハ戰ヒヲ交ヘ和ヲ講スル等ノ權無キヲ以テ之
ヲ主權アル者トセス唯此各部ハ外國ニ對シ各
人又ハ各社ニ等シキ私權ヲ行フヲ得ルニ過キ

國ノ義務ハ
政體ノ變革
ニ依リ消尽
スルナシ

然レドモ半主^自カラ主權ヲ行ノ國互ヒニ相
交ルニ於テ別段ノ限制アラザレハ國際ノ法則
ヲ施行スルニ妨ケアルナシ

第三十八條

國ハ恰モ公道ヲ辨知シタル人ニ似テ權利ヲ得
義務ヲ負フモノナリ因テ國ニ内變アリテ其憲
法改マルト雖モ其權利ニ失フ所ナク其義務ニ
減スル所ナシ故ニ權利ト義務トハ政體ノ變革
ニ依リ減盡スルナキハ當今國際法ノ必トス
ル所ニシテ國內如何ニ大變革アリト雖モ他國

ニ關スル義務ハ敢テ消盡スルヲナク又政体ノ
變革ニ依リ他國ニ對スル權利ハ敢テ減スル所
ナシ故ニ國分レテ二箇トナリ又ハ他國ト合シ
テ一國トナルカ如ク國ニ大變革アリテ其國体
全ク變スルニ至ルト雖モ外國ニ關スル義務ハ
得テ免カル可カラス譬ヘハ外國人ニ償フヘキ
負債ハ舊約ニ依テ猶之ヲ償フ可ク若シ内變ヲ
口實ト為シテ其債ヲ償ハサレハ則チ外國人ノ
權利ヲ害スル者ト為スカ如シ此故ニ米利堅各
部相連合シテ一ノ聯邦トナルニ至ルノ後其統

括政府各部ノ嘗テ外國ニ負フタル債ヲ擔當シ
又諾威ト連國ト相合レタル時以前其共通セシ
所ノ債ハ兩國相當ニ分割シテ各自ニ之ヲ擔當
シタリ是レ共ニ正直真實ノ處置ト謂フ可シ然
レモ兩國相合シ又ハ一國ニツニ分レタルニ依
リ終ニ以前ノ條約ノ義務ヲ行フ能ハサルニ至
リシト亦其例無キニ非ス嘗テ蘇格蘭ノ英國ト
相合スル以前ニ佛國ト條約ヲ結ビ相救援スル
ヲ期セリ是當時蘇國ノ趣旨ハ佛ト結テ英ト戰
フニ在リト雖モ蘇英合同ノ後ハ蘇國佛國ニ對

シテ其約ヲ蹈ムヲ能ハサルノ理ナリ何トナレ
ハ蘇國若シ嘗テ其佛國ト結ビタル約ヲ蹈ント
欲セハ今其合セントスル英國ト戦ハサルヲ得
スシテ其條理相戾ルニ因レリ蓋シ此ノ如キ場
合ニ於テハ以前結ビタル條約ト相反スル條約
ハ新タニ結フ可カラザルノ理ヲ論スル者アリ
テ是實ニ公道ニ適シタル論ト雖モ國家ノ急務
止ムヲ得サルニ至リテハ又如何トモスルヲ能
ハス又政体ノ變革ニ依リ止ムヲ得スシテ以前
結ビタル條約ノ義務ヲ消盡セシム可キ一例ア

リ是レ蓋シ残忍無道ノ君又ハ篡奪ノ政府自己
ノ慾ヲ恣ニシテ自由ノ權ヲ保セントスル人民
ヲ壓服センカ爲メ外國ヨリ債ヲ負ヒ又ハ外國
ト約ヲ結ビタル場合ニシテ若シ其暴君偽朝止
滅ノ後人民自由ノ權ヲ復シタル時ハ嘗テ其外
國ニ負ヒシ債ハ之ヲ償フニ及ハス又其約ハ之
ヲ踏ムニ及ハス是レ其故ハ暴君偽朝ト雖モ現
ニ國ノ權柄ヲ握リ實在ノ朝國ヲ支配スル道理
ヲ主權ヲ行タル時ハ當然外國ト條約ヲ結フノ
權無キニ非サレトモ人民ヲ虐スル爲メ結ビタ

ル條約ハ唯其暴君偽朝ノ私慾ノミニ關スル者
ニシテ人民ハ敢テ其義務ヲ遵守スルニ及ハサ
ルニ因レリ第百四十五條
ヲ見合ス可シ

第三十九條

凡ソ國ハ如何ナル政体タルニ管セス外國ト交
際ヲ通シ國ノ國タル職務ヲ行フヲ得可シ故ニ
其政体外國ニ對シ義務ヲ行フノ障礙タルモノ
無キ時ハ國際ノ法則上ニ於テ全ク政体ノ如何
ヲ問フヲ無シ是レ其法則上ニテハ諸般ノ政体
ヲ皆理ニ適シタル者ト看做スニ因ル所ニシテ

國際法上ニ
於テハ政体
ノ如何ヲ問
フコトナシ

實ニ方今國際ノ法ヲ遵守スル大小ノ各國ハ互
ニ其政体ヲ異ニシ數種ノ政体完備セサルヲ無
シ此ニ其類ヲ數フルニ世襲ノ立君政治アリ獨
裁ノ立君政治アリ立憲ノ立君政治アリ聯邦ノ
共和政治アリ推選ノ教皇政治アリ其他又政体
ノ種類枚舉スルニ遑アラズ

第四十條

前條ニ說シ如ク國ノ政体變革シ又ハ内變ニ依
リ或ハ分レテ二トナリ或ハ他國ト合シテ一ト
ナルトアリト雖モ此等ノ事ハ國際法ノ敢テ論

國際法ハ實
在ノ朝ノミ
ニ關ス

スル所ニ非ザルナリ蓋シ國際法ニ於テハ唯國
ノ現ニ獨立不羈ニシテ能ク國タルノ職分ヲ行
ヒ其義務ヲ擔當シ得可キヤ否ヤヲ問フニ在テ
政体ノ是非善惡ヲ論スルニ至テハ是レ其域内
ニ住スル人民ノ自カラ決ス可キ内事ニ屬シ固
ト外國ノ議ス可キニ非ス若シ其是非ヲ定ムル
ト外國ノ意ニ出ル時ハ其國獨リ自主ノ權ヲ失
フノミニ非ス戰鬪復タ止ムノ期ナカル可ク然
ラサレハ各國皆一強國ノ意ニ從ヒ新タニ其政
体ヲ立テザルヲ得ス故ニ唯國ノ存在シテ正理

ヲ有スル者タルヲ預料シ其政体ノ是非善惡ヲ
問フト無キハ是レ固ヨリ國際法上ノ必トスル
所ナリ蓋シ各國互ヒニ交ヲ結ビ約ヲ立ルノ要
ハ唯其現ニ存在スル政府ヲ知り得ルノミニシ
テ足レリトシ而シテ其政府ヲ知り得ルハ殊ニ又
難キニ非ス夫ノ政体ノ利害得失ヲ審斷スルガ
如キハ敢テ他國ノ關セサル所ナリ
此道理ハ世界各國皆異ナルト無キヲ以テ新
ニ起リタル實在ノ政府ト暫時或ハ親睦セサル
國アリト雖モ永時ノ後ハ互ニ相親睦セサルヲ

得サル是レ自然ノ勢ヒニシテ終ニハ各國皆實
在ノ朝ヲ認ムル一至ル可シ抑モ自國ノ變亂ヲ
恐ル、國ハ他國ノ内亂ニ乘シテ起リタル一新
ノ政府ヲ認ムルヲ欲セス又ハ他國ニ於テ我カ
邦ト血縁ノ君主或ハ永ク我カ國ト好ミヲ結ビ
シ君主ヲ廢シテ起リタル一新ノ政府ヲ認ムル
ヲ欲セサル者アリト雖モ數年ノ後ハ終ニ天意
ト人業トニ從ヒ其新政府ヲ認メ交ハラサルヲ
得サル是亦自然ノ勢ヒナリ然ルニ若シ此自然
ノ勢ニ反シ甲ノ國新クニ政体ヲ定メタル乙ノ

政府ヲ認ムルヲ肯セス永ク固執シテ異議ヲ唱
フル時ハ乙ノ國又甲ノ國ヲ仇視シテ終ニハ戰
ヲ交ヘ世界平安ノ時ナキニ至ル可シ

古今各國ノ史上ニ新政府ヲ認メタル例甚ク多
シ今其類ヲ掲クハニ荷蘭瑞西ノ如キモ新クニ
國ヲ建タル後歐羅巴各國ト兵行ノ交リヲ結ビ
遂ニウストフリアノ和議ノ時特ニ各國ノ列ニ
如ハリ又米利堅聯邦南亞米利加ノ各國、二次ノ
佛蘭西帝國第一次ハ拿破崙第一世ノ帝國、第二次ハ拿破崙第三世ノ帝國ヲ云フ
希臘ノ王國等ノ如キ皆變亂ヨリ國ヲ建ツル者

ト雖^モ各國終ニ其新政府ヲ認メサル無シ又千六百八十八年ノ英國千八百十八年ノ瑞典ニ於ケル如ク王室ノ變易シタル時及ヒ千八百三十年ノ荷蘭ト白耳義トニ於ル如ク一國分レテ二國トナリシ時ノ如キモ亦他國ヨリ其新政府ヲ認メタリ加之魯^ロ亨^ン塊^クノ三國恣ニ^ポ波^バ蘭^{ラン}ノ地ヲ掠奪シタルカ如キハ固ト不正ノ處置ニ出ルト雖モ終ニ亦實在ノ事トナリタレハ方今國際法上ニ於テ敢テ其邪曲ヲ論スルノ理無シ
前ニ記スル所ノ法則ハ萬國ノ遵守スル所ト雖

モ政府ノ實在ナルヤ否未タ分明ナラサル間ハ他國ヨリ其政府不羈ノ權ヲ有スルモノタルヲ認ム可カラサルヲ必セリ故ニ藩屬地ト本國ト互ニ戰鬪シ又ハ國中ノ一部其君長ニ叛キ戰鬪スルノ際ニ當リ他國若シ其藩屬地又ハ背反シル一部ヲ新立ノ國ナリト認ムル時ハ即チ其國ノ權利ヲ冒害スル所為ニシテ戰端ヲ啓クノ起源ト謂フ可ク而シテ又其現ニ一箇ノ獨立國ヲ為シタルヤ否之ヲ判断スルハ諸國各自己ノ意ニ随ヒ決ス可キ所ニシテ必スシモ其叛亂ニ逢フ

タル一方 即チ本國ニ 於テ之ヲ許認スルヲ待ツニ及
ハサルナリ蓋シ此一事ニ就キ最良トスル方法
ハ本國兵力ヲ以テ其叛亂ヲ起シタル藩屬地ヲ
壓服セント為スヲ止メ又ハ國君其背反シタル
省部ヲ征討セント為スヲ止メタル時他國ハ以
テ其變革ヲ成就シタルノ期ト看做シ一ノ新立
國ヲ認ムルニ在リトス

第四十一條

實在ノ政府ニ叛キ兵ヲ舉ケタル省部又ハ藩屬
地等ハ他國ヨリ其救援ヲ為ス可カラヌ是レ他

背反シタル
省部ヲ救援
スルノ可否

國一度國ノ實在及ヒ主權ヲ認メタル上ハ決シ
テ其障害ヲ為ス可カラサルノ理ニ出ル所ナリ
此故ニ若シ一國ノ人民自由ノ權ヲ得ント欲シ
其實在ノ政府ニ叛キタルヲ他國ニ於テ正義ナ
リト為シ以テ之ヲ救援スル時ハ是レ其國ノ主
權ヲ冒スノ理ニシテ何レノ國ニテモ皆騷擾ノ
起ル毎ニ他國ヨリ其内事ニ關涉スルノ道ヲ開
ク者ト謂フ可シ
是ニ又實在ノ政府其省部ノ背反シタルノ征服
センカ為メ他國ニ救援ヲ求メタル時他國其求

需ニ應スルハ國際法上ニテ敢テ之ヲ禁スルヲ
ナシ何トナレハ他國其求援ヲ為スハ敢テ國ノ
内事ニ關涉スルニ非ス國際法上ニ於テ保護ス
ル所ノ現在ノ景狀ヲ存續セシメント欲スルニ
在ルカ故ナリ然レバ論者或ハ曰ク人民自由ノ
權ヲ得ント欲シテ實在ノ政府ニ叛ク時ハ外國
ヨリ其人民ヲ援ク可カラズ又實在ノ政府其人
民ヲ壓服センカ為メ外國ニ應援ヲ求ムル時ハ
外國ヨリ其政府ノ求ニ應スルヲ得可キトノ法
則ハ頗ル公平ノ道ヲ失ヒ唯暴虐ノ政ヲ行フ者

ヲシテ其人民自由ノ道ヲ妨ケシムルニ益アリ
人民ノ權利ヲ保護スル者ヲシテ其暴虐ノ政ヲ
拒マシムルニ益無ク此ノ如キ法則ハ世ノ為メ
ニ利益アル改革ヲ妨クルノ大害アリト此說理
ナキニ非スト雖モ前ニ記スル所ノ公法ハ暴虐
ノ政ト自由ノ政トヲ問ハズ縱實在ノ政ヲ維持
スルヲ以テ旨趣ト為スニ在レハ最モ公平ノ義ニ
協フタル者ト謂フ可シ又此ニ甲乙ノ二說アリ
甲ノ說ハ凡ソ各國內亂アル時ハ他國其好ム所
ニ隨ヒ或ハ此黨ニ與ミシ或ハ彼黨ノ助ク可シ

ト又乙ノ説ハ各國內亂起ルト雖モ他國ハ決シ
テ其反黨及ヒ實在ノ政府ヲ兩ナカラ助ク可カ
ラスト蓋シ甲ノ説ハ正理ニ基ク所無ケレハ固
トヨリ之ニ與ミスル者ナカル可ク又乙ノ説ハ
國ノ内變ヲ防クニ稍其便アルニ似タリト雖モ
若シ全國ノ人民舉テ其變革ヲ欲スル時ハ敢テ
之ヲ防止ス可キニ非ズ故ニ將來ハ知ラス方今
ニ於テハ此ノ如キノ説各國ノ敢テ採用セサル
所ナリ

第四十二條

他國ノ内事
ニ關涉ス可
カラサル法
則ノ例外

斯ク他國ノ内事ニ關涉ス可カラサルハ萬國ノ
定則ナリト雖モ其例外トスル條件又甚ク重大
ニシテ且ツ数多ナルカ故ニ合理ノ關涉ト悖理
ノ關涉トヲ區別スル亦容易ナリトセス即チ其
一ハ毫モ正義ニ協ハサル關涉アリ又一ハ甲ノ
國乙ノ國ト戰鬪セント欲スル時乙國ノ省部背
反スル者アレハ甲國忽チ其反黨ヲ助ケ以テ乙
國ヲ政弱ナラシムルニ在リ又一ハ全ク理ナシ
ト謂フニ非ス又戰鬪ノ為メト謂フニ非ス以テ
他國ノ内事ニ關涉レ而シテ基督教ヲ奉スルノ各

他國ノ内事ニ關涉スルヲ許ス條件

國之ヲ許認スルニ在リ其他此ノ如キ關涉ノ種類其數頗ル多シ然レ凡ソ他國ノ内事ニ關涉スルハ各國互ニ自護ノ權利ヲ行フ可キ為メ已ムヲ得メレテ之ヲ為シ又ハ此國ノ政府其人民ヲ苛虐スルノ特ニ酷クシキニ因リ彼國遂ニ其内事ニ關涉スルガ如ク極急切迫ノ事アルニ非レハ漫ニ之ヲ為スヲ許サス故ニ總テ此國ヨリ彼國ノ事務ニ關涉スルノ曲直ヲ判断スルハ皆此二箇ノ大基本自護ノ權及他國政府ノ惡虐ニ據ル可キ所ニシテ又後來此國ヨリ彼國ノ内事ニ關涉ス可

キ預定ノ條約ニ就キ其曲直ヲ判断スルモ亦此大基本ニ據ラサルヲ得スト雖モ此大基本タルヤ固ト確然不拔ノ者アルニ非サレハ亦人意ニ管シ以テ變易セサルヲ得ス抑彼國ノ計策我國ノ為メ幾許ノ危害アル可キヤ我國未タ之ヲ分明ニスルヲ能ハスシテ唯彼國ノ謀ル所我國ヲ害セントスルニ在ルヲ思料シタルノミヲ以テ直ニ我ヨリ彼ノ内事ニ關涉ス可キニ非ヌ又日後彼ノ形勢我ノ為メ障碍タル可キヲ想察スルヲアリト雖モ亦我ヨリ強テ彼ニ論議ヲ加フ可

キニ非ス殊ニ此國ヨリ彼國ノ内事ニ管係ス可
カラサルハ猶此人ヨリ彼人ノ家事ニ關涉ス可
カラサルカ如ク此ヨリ彼ニ關涉スルハ通常人
ノ許サ、ル所ニシテ如何ナル憑據アレハ其關
涉ヲ許ス可キヤ是レ亦甚タ確定シ難キ所ナリ
故ニ他國ノ理ニ順テ次第ニ財源ヲ開キ富強ニ
至ラントスルハ我ヨリ之ヲ妨クルノ道無ク又
縱令彼ヨリ我ニ害ヲ加ヘント欲スルノ意アリ
ト雖モ其確證ヲ得ルニ非レハ亦我ヨリ強テ之
ヲ阻止スルヲ得サルナリ

是ニ又他國ノ政府其人民ヲ辱スル特ニ苛虐ナ
ルニ因リ我國ヨリ之ヲ論駁シ得可キト否トハ
其殘酷ノ甚ト不甚トニ管スル所ナレトモ是レ
亦分明ナル定限アルナシ然レトモ此ノ如キ
事ノ為メ我國ヨリ他國ノ内事ニ關涉スルハ大
概公平ノ意ニ出ル所ナレハ錯誤ノ虞多シトモ
ス縱令錯誤ニ出ルニアリト雖モ此國ヨリ彼國
ノ虐政無道ヲ論スルカ如キハ稀罕ノ事ナルガ
故ニ其錯誤ノ害モ亦敢テ大ニ虞ス可キニ非ル
ナリ

第四十三條

前數條ハ他國ノ内事ニ關涉スル道理ノ有無ヲ論スト雖此條以下數條ハ現在國際法上ニ於テ他國ノ内事ニ關涉スルヲ許ス所ノ箇條ヲ説カントス因テ今第一ニ均勢ノ法ヲ論ス可シ抑均勢ノ法トハ一國現ニ土地ヲ廣メ又日後土地ヲ廣ム可キノ施設ヲナシ隣國ノ獨立不羈ヲ危ウス可キ虞アル時他國ヨリ之ヲ抑制スルニ在リ因テ其均勢ノ法ヲ辨明スル左ノ如シ

第一 一國ノ處置唯其財源ヲ開キ土地ヲ開

均勢ノ義ニ關涉スル事

墾スルカ如キ莫ノ内事ニ關シテ自カヲ其勢ヒ隣國ニ勝ルト雖モ他國敢テ關涉シテ之ヲ抑制スルヲ得ス然レトモ隣國ノ地ヲ掠メ又ハ已レノ領地ヲ廣メテ隣國ヲ壓スルノ虞アル時ハ其方法ノ如何ヲ問ハス他國關涉シテ之ヲ抑制スルヲ得可シ譬ヘハ強大國ノ君主其子弟ヲ隣國ノ君タラシメ更ニ強大ヲ増ス時ハ其處置如何ニ正理アリト雖モ他國ヨリ關涉シテ之ヲ

第二

抑制スルヲ得可キカ如シ

當今ニ至ルマテ歐洲各國ノ政府其人
民ヲ他洲ニ遣ハシテ如何ニ領地ヲ廣
ムルト雖モ他國敢テ均勢ノ法ヲ唱ヘ
之ニ關涉スルヲ無シ故ニ英國ハ漸ヲ
以テ藩屬地ヲ廣メ強大ニ至ルト雖モ
歐洲ノ諸國敢テ之ヲ制セントスルヲ
無シ是レ海外ニ領地ヲ廣ムルハ直ニ
均勢ノ法ヲ害セサルニ依テナリ
均勢ノ法ハ專ラ陸地ノ勢力ヲ論スル

第三

者ニシテ海上ノ勢力ニ關係スルヲ少
ナシ譬ヘバ從來歐洲諸國互ニ均勢ノ
法ヲ主張セシ際英國ハ海上ニ於テ特
ニ其勢力ヲ増加セシト雖モ他國敢テ
之ヲ論シタルヲ無キカ如シ是レ其道
理ハ海上ニ於テ勢力ノ大ナルハ直ニ
歐洲各國ノ交際ニ關スルヲ無ク又各
國ノ獨立不羈ヲ害スルヲ無キニ依テ
ナリ

第四

均勢ノ法ハ未タ歐洲ノ疆界以外ニ及

ボス事ナシ蓋シ其道理ハ亞米利加洲
ノ各國ハ其國ヲ建ル近時ニ在リテ未
ク歐羅巴ノ事務ニ其權カヲ及ボセシ
事アラザルニ依ル

數國互ニ相接近シ此國彼國ノ為メ頻ニ侵襲ヲ
受ク可キノ恐レアル時ハ自護ノ為メ自カラ均
勢ノ法ヲ立テザルヲ得ス譬ヘハ茲ニ聯邦アリ
テ其各邦自由ニ戦ヒテ交ヘ和ヲ講スルノ權ヲ
有シ且互ヒニ不羈タルノ契約アルニ若シ其聯
邦中ノ一強邦已レノ勢力ヲ以テ弱邦ヲ劫ス

アル時ハ各邦皆之ニ關涉シテ其暴勢ヲ抑制セ
ザルヲ得ス歐洲ハ其形勢恰モ此ノ如キ聯邦ト
相彷彿タルカ故ニ強大ノ邦或ハ弱小ノ邦ヲ制
壓セントスル禍害ヲ防ガシカ為メ自カラ均勢
ノ法無キヲ能ハス然ルニ亞米利加洲各國ノ如
キハ歐洲ト隔絶スル數千里ニシテ渺々タル大
西洋其間ニアレハ縱令其一國強大ニ至ルヲア
リト雖モ歐洲ニ於テハ敢テ之ヲ恐懼スルニ足
ラザルナリ

第四十四條

古今均勢ノ
法ヲ維持セ
ルカ爲メ他
國ノ内事ニ
関涉シタル
例

均勢ノ法ハ昔時既ニ希臘國ニ於テ行ハレタル
所ニシテ古シクデス高名ナノ史家ノ説ニ據レハ所謂
ペロポネソス半島ノ戰鬪ハアテンス國ノ勢ヒ
強大ニ至リ他國ヲ脅壓セントセシカ故ニ之ヲ
制ス可キ爲メスパルタヲ首トシ希臘各國合從
シテアテンスヲ討シタルニ起リシナリト然ル
ニ此戰鬪ノ終リアテンス敗レテ衰頽ノ勢ヒニ
及ビシニ因リテベス及ビコリントノ二國ハ全
クアテンスヲ亡スヲ欲セシト雖モスパルダハ
アテンスヲ亡ス時ハ希臘各國ノ均勢ニ害アル

ヲ論シ又其後テマス國強大ニ至リシ時アテ
ンハスパルタニ與ミシテ之ヲ支ヘ以テ均勢ノ
法ヲ維持シタリ

降テ中古ニ至テハ日耳曼帝威權ヲ以太利ノ地
ニ震ヒシ時羅馬教皇之ヲ支ヘンカ爲メ各國均
勢ノ説ヲ主張シ其後千四百九十四年以來佛蘭
西王查理爾斯八世及ヒ路易路易十二世那不勒那不勒及ヒ米
蘭ノ地ヲ得ント謀リタル時西班牙羅馬教皇威
尼斯ノ三國佛ヲ防ク可キ爲メ相合從シ又其後
千五百八年以太利ノ事ニ關シタル諸國カム

レイニ於テ條約ヲ結ビ威尼斯ヲ討シニ千五百
十年ニ至リ羅馬教皇威尼斯國全ク止滅スル時
ハ以太利ノ全國佛ノ為メニ屈服セラル可キヲ
恐レ諸國ト會盟シテ佛ト戦ヒシカ是レ皆均勢
ノ法ヲ維持セントスルニ因ル所ナリ

其後又奧地利家ノ一族西班牙及ビ日耳曼帝國
ヲ兼領シ且其他廣大ノ地ヲ所轄ニ歸ジテ猛威
ヲ隣國ニ震ヒ他ノ歐羅巴各國之カ為メ危害ヲ
被ル可キノ虞アルニ因リ佛國ハ他ノ各國ト相
結ビ以テ之ヲ防ガント欲シ當時佛王瀨理四世

ノ計不幸ニシテ行ハレバト雖モ嗣王ノ世ニ至
リ宰相リセリク其志ヲ繼キ日耳曼中耶蘇新教
ノ國及ビ瑞典ヲ助ケテ奧地利ニ抵敵セシメ均
勢ノ法ヲ維持シタリ因テ千六百四十八年迄ス
トテリマノ和議ニ於テ奧地利國終ニ歐洲各國
ヲ壓スルノ恐レ無キニ至レリ

既ニノ又佛國次第ニ強大ニ至リ路易十四世歐
洲ニ跋扈シテ動モスレハ他國ヲ併吞セントス
ルノ勢ニ及ビシ故ニ歐洲各國合從シテ其暴勢
ヲ挫折シ遂ニ路易王ノ制壓セシカ是レ均勢ノ

法ヲ維持スルニ最モ正理アル者トシ而ノ當時均勢ヲ名ト為シ以テ行ノタル諸事ノ中千六百九十八年及ヒ千七百年ニ歐洲各國敢テ西班牙國王及ヒ其國民ノ意ヲ問フ一無ク漫ニ西班牙ノ地ヲ分割スル約ヲ結ビシカ如キハ頗ル非理ニシテ西班牙ノ之ヲ怒リシハ實ニ宜ナリトス既ニシテ又荷蘭ノ君長維廉各國ト結ビテ佛王路易十四世ノ威權ニ抗セシ以來ハ均勢ノ法毎ニ歐洲ニ行ハレ當今國際法ノ一定規トナルニ至レリ蓋シ近時千八百四十年歐洲ノ四大國

新制

彼國ノ事
ヲ防カス
此國ヨリ
國ノ内事
ニ關スル事

割埃及ノ君メヘ多トアリヲシテ其土耳其ヨリ枉ニ奪フトル土地ヲ還サシメ又千八百五十四年英佛ノ二國土耳其ヲ助ケテ魯西亜ノ跋扈ヲ文ヘタルハ皆均勢ノ法ヲ行ノタルノ例ナリ

第四十五條

既ニ第四十一條ニ記シタル如ク此國ニテ内亂起リ政府其亂ヲ鎮定スル為メ彼國ノ政府ニ應援ヲ求メタル時其求メテ受ケシ國ヨリ援兵ヲ出ス可キハ國際法上ニテ之ヲ當然トスル所ナリト雖モ若シ一國ノ人民自由ヲ得ント欲シテ

亂ヲ起ス。アレハ他國ヨリ其内事ニ關涉シテ
其人民ヲ壓服シ其自由ヲ得ルヲ妨ク可キノ當
否ハ敢テ國際法上ニ於テ論々可キ所ニ非ス然
ルニ歐羅巴ノ數國他國ヨリ應援ノ求メテ受ケ
タルト否トヲ問ハス若シ人民ニ自由ノ說ヲ唱
ヘ政府ヲ覆サント計ル者アレハ之ヲ鎮壓ス可
キ為メ他國ノ内事ニ關涉スルノ權ヲ以テ國際
法中ノ一則ト定メント欲セシコアリ是レ其原
由ハ千七百年代ノ末佛國大變革ノ後獨裁ノ君
主人民自由ノ說ノ已レニ害アルヲ悟リ均勢ノ

論ニ於ルカ如ク自護ノ說ヲ唱ヘシニ始マリ其
前曾テアラサル所ナリ蓋シ其說ハ甲國ニ於テ
人民自由ノ說ヲ宣布スル者アレハ其事遂ニ乙
國政府ノ基礎ヲ動カシ且甲國ニ於テ變革ノ恐
レアレバ乙國ノ威カモ亦大ニ其害ヲ受クルカ
故ニ乙國ヨリ甲國ノ内事ニ關シ務メテ變亂ヲ
防カントスルハ敢テ他國ノ内事ヲ妨クルニ非
ス唯我國ノ自護ノ權ヲ行ノノ理ナリト云ヒ而
シ此說ヲ唱フル獨裁君主ト雖モ亦敢テ獨裁ノ
說ヲ廣メヌハ人民自由ノ道ヲ妨ケ或ハ立憲ノ

政体ヲ覆ヘスノミヲ著目ト為シ以テ他國ノ内
事ニ關涉スルヲ可ナリト述フルニ非ス殊ニ近
世ノ政体變革ハ大約災禍ノ原因ニシテ所謂人
民自カラ威カヲ以テ其國ノ政体ヲ變更ス可キ
權ヲ恣ニセント欲スルニ在ルカ故ニ人民若シ
其權ヲ得ル時ハ其事即チ歐羅巴全洲ニ動亂騷
擾ヲ胚胎セシムルノ害アルニ因リ之ヲ防カン
トスルノ說ヲ唱ヘタルナリ

第四十六條

千七百年代ノ末佛國ノ人民其王ニ迫リ政体ヲ

彼國ノ變革
ヲ制シ又ハ

變革ヲ謀ル
ノ徒ヲ助ケ
ル為メ此國
ヨリ彼國ノ
内事ニ關涉
セタル例

變革セント欲セシ時歐洲ノ數大國佛人從來ノ
條約ヲ破リ且ツ其國王ヲ脅迫シテ之ヲ辱カシ
メシヲ口實トシ佛國ノ内事ニ關涉セントシテ
千七百九十一年第七月六日日耳曼皇帝歐洲各
國ノ君主ニ說キ佛國ノ人民ニ告グルニ佛國ノ
人民更ニ其王ノ權利ヲ妨ケ且ツ之ヲ辱カシメ
テ害ヲ加ヘント為スヲアラハ各國舉テ其罪ヲ
問フヘク又佛王自己ノ承諾ヲ以テ其人民ト約
定シタル憲法ニ非サレハ他國ニ於テ敢テ真正
ノ法ト認ムルヲナク又佛人ノ其王ヲ脅カシテ

其威權ヲ篡奪セント欲スルハ各國ノ為ノ危害
ヲ生スベキニ依リ共ニカヲ戮セ佛民ノ暴威ヲ
壓ス可キ旨ヲ以テシ又同年第八月廿七日ニ至
リ日耳曼ノ皇帝亭漏生王ト結ヒテ歐洲各國ノ
君主ニ檄文ヲ傳ヘタリ其文ニ曰ク各國ノ君主
佛蘭西王ヲ援ケテ自由ニ立君政体ノ基礎ヲ建
テ君ノ權ト民ノ益トヲ得セシムル為メ皆相合
從シテ兵馬ヲ募リ以テ攻撃ノ令ヲ傳フ可シト
其後同年第九月十三日佛蘭西王新クニ國民ノ
制定シタル憲法ヲ承諾シ是ヲ維持セント欲ス

ル旨ヲ外國ニ報告セシニ因リ外國ニ於テハ佛
人等強テ其王ノ權利ヲ妨ケシヲ口實ト為シ兵
カヲ以テ佛國ノ内事ニ關涉スルヲ能ハサルニ
至リシト雖モ各國ト佛國トノ争ヒハ猶平定セ
ス遂ニ千七百九十二年第四月七日ニ至リ日耳
曼皇帝ヨリ佛國ニ促カスニ佛人等千七百八十
九年第六月廿三日ノ王命ヲ以テ基礎ト為シ更
ニ立君ノ政体ヲ復シテ且ツ空ナイシンノ地ヲ
羅馬教皇ニ還シ又アルサスノ地ヲ日耳曼ノ諸
侯ニ還スベク若シ佛人此事ヲ應諾セザル時ハ

戦端ヲ開ク可キ旨ヲ以テシタリ依テ佛國民選
議會ハ止ムヲ得ス以後佛國日國ト兵端ヲ開
ク可キノ布令ヲ為シ又同年第六月廿六日ニ至
リ李王日耳曼帝ト相結ヒテ佛國ト兵ヲ交ユル
ノ趣意ヲ世ニ公布セシカ其大旨ハ佛國ノ激烈
黨人々互ヒニ相交ワルノ道ヲ破リ以テ其國ヲ
シテ騷亂ニ陷ラシメ加フルニ歐洲各國君主ノ
貴重ナル身ニ對シ耻辱ヲ加ヘテ其正當ノ權利
ヲ害ス可キ書冊ヲ作り之ヲ公ケニセシニ因リ
佛國今者佛國ノ擾亂ヲ靜定シ以テ立君政体ニ

基テ當然ノ政府ヲ復シ佛國ノ激烈ナル兇徒等
ノ害他國ニ波及スルヲ防カントスルニ在リ
又佛國ノ民選議會ニ於テハコンドルセーヲシ
テ日耳曼帝ノ檄文ニ答フル一ノ文章ヲ作ラシ
メタリ蓋シ其趣意ハ如何ナル國ト雖モ自國ノ
法律ヲ制定シ又ハ變改スルニ各自主ノ權アリ
テ敢テ他國ノ關涉ヲ受ク可キノ理無ク又佛國
ハ既ニ他國ノ地ヲ侵畧ス可キ計議ヲ全廢セシ
カ故ニ毫モ歐洲ノ安寧ヲ妨グルノ罪無ク且自
國ニ於テ人民國ニ主タルノ說ヲ現ニ唱フルト

雖モ此事敢テ他國ノ害ヲ為スニ非ス又佛國ヲ
脫奔シタル王族貴顯輩ハ他國ノ助ケヲ受ケテ
佛國ニ在ル王黨ヲ挑唆シ以テ内亂ヲ起サント
欲スレドモ、佛人ハ敢テ他國ノ人民ヲシテ騷亂
ヲ起サシムルノ意ナシ此ニ由テ之ヲ論スレハ
人民ノ奴使ヲ弘ムルハ理ニ適セ人民ノ自由ヲ
弘ムルハ理ニ適ハス權利ヲ有スルハ獨リ帝王
ノミニ在テ人民ハ如何ニ苦役ヲ受クルト雖モ
敢テ抗拒スルノ理無シトノ暴論世ニ行ハル、
ニ非サレバ日耳曼帝ノ論スル所敢テ理有リト

為ス可カラサルヲ説キタリ
茲ニ又英國ハ既ニ人民自由ノ説ヲ唱ヘテ其政
体ヲ一變シ爾來頗ル人民ノ自由ヲ保護スルヲ
以テ國ノ定論ト為スカ故ニ日耳曼又ハ字漏生
ノ如キ君主獨裁ノ説ヲ主張セス是ヲ以テ直チ
ニ佛國ニ投スルニ戰書ヲ以テスルヲ無シト雖
モ英佛ノ交際ハ亦甚タ親睦ナラバ其故ハ此兩
國ハ嘗テ互ヒニ不和ヲ生スルノ原因多クシテ
就中其首タル者ハ佛國ヨリ密カニ英國ニ人ヲ
遣リ其内亂ヲ挑起セシメ且ツ佛國民選議會ニ

於テ歐國タルト中立國タルトノ別ナク歐洲ノ
各國ニ佛人ノ唱フル民權ノ說ヲ廣メ以テ騷亂
ヲ起サレメント企テタル事ノ流布セシニ依レ
リ是ニ於テ英佛ノ兩國互ヒニ相抗敵ス可キ意
ヲ生セシカ千七百九十二年ノ初メ佛國ノ人民
路易王ヲ弑シタル時ニ至リ英國政府遂ニ佛ノ
辦理公使ヲシテ其國ヲ去ラシメ當時ノ宰相ピ
リ氏佛國ニ於テ英國ヲ禍ス可キ謀ヲ企テシニ
因リ止ムヲ得スシテ佛國ノ内事ニ關涉スルノ
意ヲ公布シ以テ佛ト戰端ヲ開キタリ然レモ其

十八百十五
年九月ノ
神聖會議

畢竟ヲ論スルニ英佛互ヒニ相戰フノ原因ハ全
ク千七百九十三年ノ夏佛人ノ國王ニ迫リ遂ニ
之ヲ弑シタルニ依ル所ナリ而シテ又佛人ノ其
王ヲ弑シタルハ意フニ歐洲ノ各國佛王ヲ助ケ
以テ其内事ニ關涉セシヲ怒リ皆其王ヲ猜忌シ
テ各國ノ帝王ヲ惡ムノ意愈増シタルニ出ル所
ナル可シ
斯テ佛國ノ變革止ムヲ無ク其事ニ關涉シタル
各國ハ却テ佛人トノ戰ニ敗歟シ因テ佛國ノ勢
威強大ヲ極メ殆ト歐洲過半ヲ蹂躪スルニ至レ

リ然レトモ其兵終ニ破レテ拿破崙第一世其帝位ヲ失ヒ不爾奔ノ舊家佛國ノ王位ニ復シ尋テ窩德祿ノ戰ノ後各國ノ兵巴里斯ニ占據シテ魯埃亭ノ君主所謂神聖會盟ノ約ヲ結ヒ其後佛王モ亦此盟中ニ加ハレリ蓋シ其會盟ハ之ヲ結ヒタル其初メ敢テ確定ノ趣意アルニ非ス魯帝^{ナポレオン}登山頗ル快氣ヲ帶フルニ因リ當時ク^{ナポレオン}テ子ルト云ヘル一婦人ノ為メ誘起セラレ遂ニ歐洲ヲシテ靜寧ノ樂世ニ至フレモ基督教ノ道ニ依テ各國ノ交際ヲ制定ス可キ意見ヲ生シ自カラ其

首トナリテ神聖會盟ヲ結ハント各國ノ君主ニ說シニ各國ノ君主大約魯帝ノ意ニ隨ヒ其會盟中ニ加ハリシニ出テ其會盟ノ趣意ハ各國君主皆神祇ニ誓ヒ法教公義仁惠ノ道ニ從ヒ以テ其政ヲ行ヒ此國若シ助ケテ彼國ニ求ムル時ハ彼國必ス其求メニ應シ且其人民ヲ愛スル猶慈父ノ其子ヲ鞠養スルカ如クニシ各國ノ人民ヲ恰モ基督教ヲ奉スル一大家族ノ如クニ看做シ其管理ノ長ハ即チ上帝ナリト思フ可キニ在ルヲ公告シタル者ナリ然ルニ其趣意次第ニ變移シ

十八百十八
年九月四日
イラビベル
ノ會議

テ神聖會盟ノ趣意終ニ獨裁ノ君主其人民ノ自由ヲ抑制スルノ具トナリ其盟中ノ君主人民ノ為メニ脅迫ヲ受ク可キ恐レアル時ハ他國ノ君主忽チ之ニ關涉シテ人民ヲ壓シ以テ歐羅巴全洲獨裁ノ政ヲ維持スルニ至レリ
其後エイラビベルニ歐洲五大國英佛普奧普ノ欽差會合シ各國ノ兵佛國ノ城砦ニ占據スルヲ退クルノ約ヲ結ビ且ツ神聖會盟ニ等シク趣意ノ頗ル邈然タル會盟ヲ結ビタリ而メ其會盟ノ真實期著スル所ハ歐洲中ノ各國ニ若シ人民動搖シ

十八百十八
年九月四日
イラビベル
ノ會議

テ事ヲ謀リ亂ヲ起サルトスル者アレハ他國必ス其君主ヲ助ケ以テ獨裁ノ政ヲ維持セシマルニ在リト雖モ陽ニ唱フル所ノ名ハ各國互ビニ會盟ヲ為シテ國際ノ公法ヲ遵奉スヘキ意タルヲ世ニ布令セシ者ナリ其布令ノ文ニ曰ク此會議ニ關スル君主ハ互ニ相交ハリ又ハ其他ノ國ト相交ハルニ皆列國ノ公法ヲ嚴密ニ遵奉スルヲ各意衷ニ断然相決定ス而メ各國君主、此決定ヲ為テ所以ハ其公法ハ各國政府ノ不羈ヲ保護シ各國ノ交際ヲ親睦ニ為シ永ク歐洲ヲシ

シテ平穩ナラシムルノ基礎タルニ因レハナリ
ト然ルニ未タ幾クナラスシテ此市令ハ其名實
ノ相齟齬セシテ全ク分明ナルニ至レリ蓋シ其
原由ハ歐洲ノ人民各國君主ノ相結ンデ人民ノ
權利ヲ抑制セント欲スルノ照然タルヲ憤リ千
八百二十年及ヒ千八百二十一年西班牙^{ナポレオン}不働
撒^{ナポレオン}丁等ノ國民自由ノ權ヲ得ント欲シ至ル處蜂
起シテ人民自由ノ道ニ基キ以テ其國ノ憲法ヲ
立テタルニ在リ因テ當時各國ノ君主之カ為メ
ニ戒虞ノ心ヲ生シ同年第十月相與ニ亭國ノ

ロ^ッハ^ウ一會集シテ人民ノ亂ヲ壓スルヲ議シ次
テ^ニ奧國ノライバクニ於テ更ニ會議ヲ為セシカ
蓋シ此會議ハ歐洲ノ五大國或ハ其君主親臨ス
ル者アリ或ハ使臣ヲ派出スル者アリテ且那不
勒王及ヒ以太利小國ノ欽差モ亦來會シ遂ニ以
太利ノ人民中自由ヲ得ント謀ル者ヲ制壓ス可
キ決議ヲ為スニ及ベリ然ルニ當時英國政府ハ
其意取テ人民ノ動搖ヲ制服スルヲ欲セザルニ
非スト雖モ亦兵力ヲ以テ以太利ノ内事ニ關涉
スルノ議ヲ肯セス又佛國政府ハ以太利ニ於テ

自由ノ説ヲ唱フル徒ヲ討スル時ハ塙國ノ勢威
増強大ニ至ルベキニ恐レアルカ故ニ意中其議
ヲ肯セシニ非スト雖モ亦自國尊王黨ノ宿望素
懷ヲ慰セント欲シ各國ノ兵力ヲ以テ以太利ノ
内事ニ關涉スベキノ説ヲ主張シタリ因テ塙國
其機ニ投シ以太利ニ兵ヲ送りテ千八百二十一
年ノ初メ又ニ血スラダシテ以國人民ノ自主ヲ
唱フル黨ヲ壓服シ以テ君主獨裁ノ政ヲ其舊ニ
復スルニ至レリ

又當時塙國三國ノ君主ハ世上ニ轉帖ヲ出シ

以國人民ノ自由ノ説ヲ唱ヘシ者ヲ討シタル其
趣意ヲ辨解セシカ其文ニ曰ク今者各國ノ人民
政府ヲ覆ヘシ數百年來歐洲ニ名譽幸福ヲ生レ
タル制度律法ヲ廢セントスル隱謀ヲ企テシニ
依リ予カ輩其隱謀ハ歐洲公法ノ道ヲ害スル者
タルヲ思ヒ且總テ人民ノ變亂ヲ好ミ政府ヲ覆
シテ開化ノ各國ニ紛亂騷擾ノ蔓延スルヲ防セ
カントセシニ在リ然レトモ予カ輩ノ意ハ止ム
ヲ得ザル事アルノ外敢テ外國ノ内事ニ關涉ス
ルヲ欲セサレハ必ス他國ノ權ヲ侵害スル

「無シト然ルニ當時英國政府ハ此國ノ變亂ニ依リ彼國ノ為メ危害ノ切迫セシ時彼國ヨリ此國ノ内事ニ關涉ス可キ權利アルノ一事ハ之ヲ認メタリト雖モ總テ如何ナル國ヲ問ハス人民ノ亂ヲ起シ其政府ニ敵スル時ハ他國ヨリ其内事ニ關涉シテ其人民ヲ壓スルノ權無ク且此國ヨリ他ノ國ノ内事ニ關涉スルハ實ニ止ムヲ得サル例外ノ事ニシテ若シ是ヲ以テ國際法ノ定則ト為ス時ハ大ナル害アル可キヲ辯論シタリ其後未タ幾モ非ズシテ千八百二十一年ノ中頃

千八百二十一年

西班牙ノ尊王黨其國ノ北方ニテ一揆ヲ起シ立憲ノ政体ヲ覆ヘサントセシ時佛國ハ其一揆ニ助力シ佛ノ境内ニ集合スルヲ許シテ軍資兵器等ヲ具備セシメ加之若シ止ムヲ得サルヲアレハ佛國內ニ退ク可キヲ許シ又嘗テ會合シタルライバクノ公會ハ當時之ヲ止メ更ニウロナニ於テ各國ノ欽差等會合シテ專ラ西班牙ノ時務ヲ論議セシガ蓋シ其公會ノ論スル所ハ佛國ヲシテ兵力ニ藉リ西班牙ノ内事ニ關涉セシメ以テ立憲ノ政体ヲ變シテ獨裁ノ政体ト為サント

欲スルニ在リ然ルニ英國ノ欽差ウエルinton
ハ獨リ自國ノ政府斯ノ如キ處置ニ與セザルヲ
知ルカ故ニ西班牙ノ人民ヲシテ強ヒテ公會ノ
意見ニ從ハシムルノ不可ナル旨ヲ述フルト雖
佛國ノ欽差モンセラシ及ヒビクトーアリ
アン、兩氏ハ自己ノ識見ヲ立テ頻リニ兵力ヲ
以テ西班牙ノ一揆ヲ助ケ立憲政体ヲ覆ハス可
キ旨ヲ辯論シタリ因テ魯國ノ如キハ以前ライ
バクノ會議ノ時兵力ヲ以テ他國ノ内事ニ關涉
スルヲ可トセザリシガ當時佛國欽差ノ述ル所

君主獨裁ノ政ニ便ナルヲ思ヒ終ニ其論ニ左祖
セリ因テ他國ノ欽差モ亦其說ニ從ノ者許多ナ
ルニ至リ衆議終ニ一決シテ佛國ノ兵西班牙ノ
地ニハリ其カデス城ヲ侵襲シ嘗テ其國王ノ承
諾セシ憲法ヲ廢シ陽ニハ王ヲシテ自由ノ得セ
シノタリト称スレトモ其實ハ全ク國民自由ノ
權ヲ削奪シタリ蓋シ斯ノ如ク兵力ヲ以テ恣ニ
他國ノ内事ニ關涉セシノ甚シキハ近世稀ナル
事ニシテ若シ外國ヨリ西班牙ノ尊王黨ヲ助ケ
ルヲ無クンハ想フニ西國ノ立憲政体終ニ固定

シテ其國昌寧ノ福ヲ享クルニ至ル可キニ外國
ヨリ其内事ニ關涉セシニ因リ愈騷亂ノ原因ヲ
増スニ至レリ

第四十七條

又此空口ナノ公會ノ處置ヨリ自カラ米利堅ニ
於テ所謂モンロー說ナル一箇ノ論說起ルニ至
リシカ蓋シ其說ノ趣意ハ歐洲各國他國ノ内事
ニ關涉スルヲ不可ナリトスルニ在リ而シテ其
說ノ因テ起ル所ヲ尋マルニ空口ナノ公會ニ於
テ西班牙國ノ獨裁政治ヲ主張スル者ノ
即チ前文ニ尊

モノ
ロー
式

王黨ト記
レタル者所願ニ從ヒ亞米利加洲ニ在ル西班牙
舊藩屬地ノ既ニ獨立ヲ得タル者ヲレテ強テ再
ヒ本國ノ附庸タラシムルヲ欲スルノ說アリシニ
因リ千八百二十三年英國政府ヨリ其旨ヲ米利
堅政府ニ告ケ且ツ米國ニテ其說ヲ拒ム可キノ
緊要ナルヲ報シタルニ出テ當時米國大統領モ
ンロー氏國會ニ論文ヲ下セシカ其畧ニ曰ク米
國政府ハ歐洲各國ニ於テ他國ノ内事ニ關涉ス
ルノ說ヲ我カ半球南北亞米利加ニ及ホサント
スルヲアラハ則チ我邦ノ靖寧ヲ害スル者ト看

做ス可レ故ニ苟モ歐洲ノ各國米國ニ於テ獨立
ヲ認メタル亞米利加洲ノ諸國ヲ強テ制壓セン
トシ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス歐羅巴ヨリ亞
米利加洲諸國ノ内事ニ關涉スル時ハ即チ我ガ
米利堅ニ對シ争ヒヲ求ムルノ意ナリトス可シ
ト既ニメ米國國會ニ於テモモンロー氏ノ趣
意ニ從ヒ一ノ議案ヲ出セシ者アリ而ノ當時其
論全ク行ハル、ニ至ラスト雖モ大統領ノ諭言
アルト英國ノ之ニ同意セシトニ由リ歐洲各國
西班牙ノ舊藩屬地ヲ制壓セントスルノ議論ハ

終ニ止ムニ至レリ

茲ニ又モンロー氏ノ諭言中ニ米國ト割國トノ
大平洋海岸境界ノ事ニ就キ左ノ詞ヲ載セタリ
曰ク今ヤ亞米利加洲ハ不羈自由ノ勢ヒヲ得タ
レハ向後歐洲各國ヨリ其地ニ植民墾開ヲ為ス
可カラサルト是レ我カ米利堅ノ權利ヲ保護ス
ルニ要務タル所ナリト而ノ其趣意ハ固ト敢テ
南亞米利加ノ各國歐洲ノ各國ニ土地ヲ讓リ植
民ヲ為サシムルヲ米國ニ於テ強テ妨ケント欲
セシニ非スシテ其委細ハ千八百二十五年ハナ

「公會ノ時當時ノ大統領アダムス氏（ヒンローリ
テ大號領ニノ國會ニ下セシ論文中心ニ就キ以テ
任レタル者之ヲ見ル可シ其文ニ曰ク方今亞米利加洲各國
ノ欽差等バナムニ會議シ向後若シ歐洲ヨリ我
半球ニ植民セントスルアラハ各國其自カヲ
以テ願フ所ト雖大國ヨリ強テ之ヲ防クニ非
ハサル互ニ之ヲ防ク可キノ約ヲ結フ我國ノ甚
タ願フ所ニシテ是レ我カ前職モンロー氏嘗テ
南北亞米利加洲ノ不羈自由ヲ得タルヨリ生
ル所ノ定論ナリト為シ既ニ二年以前世上ニ公

告シタル所ナリト蓋シ此アダムス氏ハ嘗テモ
ンロー氏ノ在職中既ニ執政ノ任ニ居リシ故此
言必スモンロー氏ノ説ヲ詳カニ了解セシニ出
タル一固ト疑フ容ル可キノ非ス然ルニ當時米
國下院ハ敢テアダマス氏ノ述フル所ニ從ハズ
シテ曰ク我米利堅ハ歐洲ヨリ南亞米利加洲ニ
在ル共和政治諸國ノ不羈ヲ妨ケ或ハ其政体ヲ
害セント為スヲ防カンカ為メニ其共和政治諸
國ト條約ヲ結フ可カラズ又歐洲ヨリ亞米利加
洲ニ植民スルヲ妨ク可キノ為メ亞米利加各國ノ

結ビタル條約ニ参加ス可カラスト
抑、モンロー氏ノ説ヲ概論スルニ當時大統領ハ
之ヲ可トシ下院ハ之ヲ否トスル者ニシテ固ト
一定ノ國論ト謂フ可キニ非ザレドモ其歐洲各
國亞米利加洲ノ時勢ニ關涉シ元來ハ西班牙ノ
舊領タリト雖モ現ニ今獨立ノ共和政治タル諸
國南亞米利加ニ在ル者ヲ制壓シ以テ西國ノ附庸ニ復セ
ントスルカ如キハ米國ニ於テ自護ノ權利ヲ行
フニ害アルニ因リ力ヲ盡シテ之ヲ防止スルヲ
持ニ必要タリ故ニ向後更ニ此ノ如キノ事アル

時ハ何レノ時ヲ論セス米國ニ於テ再ヒ此論ヲ
主張ス可キノ理アリト雖モ歐洲各國ヨリ亞米
利加ノ地ヲ墾開シ之ニ植民スルヲ米國ニテ防
止スルハ甚タ非理トス可シ故ニ魯西亞ヨリ亞
米利加ノ太平洋沿海ノ地ヲ開墾スルカ如キハ
米利堅ニ於テ決シテ脅迫ノ虞アリトス可キニ
非ス然ルニ當時米國ニテ其事ヲ抗拒セント欲
セシハ全ク非理ニ屬シ即チ他國ノ内事ニ關涉
スルノ最モ甚シキ者ト謂フ可シ
其後千八百四十八年ニ至リボルク氏ノ大統領

タリレ時ユカタン國中央亞米利ノ政府英西米
ノ三國ニ管轄保護ノ主權ヲ委子ント欲セシ
アリレカボルク氏其旨ヲ國會ニ告ケ且此國若
レ歐洲各國ノ附庸トナルヲアラハ即チモンロ
氏ノ說ニ背クカ故ニ之レヲ防ク可キ為メ速
ニ適宜ノ處置ヲ為ス可キ旨ヲ國會ニ促レタリ
然ルニ議負カルフウン氏其論ヲ駁レテ曰クモ
ンロー氏ノ說ハ固ト米國ノ定論ト謂フ可キニ
非スレテ唯其一己ノ持論タルニ過キス故ニ其
說ハ必スレモ之ヲ後世ニ施行セサルヲ得スト

為ス可キ者ニ非サレナリ況ンヤ今大統領ボル
ク氏ノ國會ニ告ケタルユカタン國ノ一事ハ顧
ミルニモンロー氏ノ說ト亦甚タ異ニレテボル
ク氏ノ論ニ據レハ英國ニ於テユカタンノ地ヲ
藩屬ト為ス時ハ米國ノ為メ危害アリト云フト
雖凡是レ畢竟無根ノ過慮ニレテ到底大統領ノ
論ニ役カヘハ爾後若シ南北亞米利加洲中ノ一
國ニ内訌起リ其黨ニツニ分レテ其勢力微弱ノ
黨米國ニ乞フニ應援ヲ以テスル時米國若シ之
ヲ肯セサレハ其黨必ス更ニ應援ヲ他國ニ乞ヒ

以テ其守護ヲ受クルニ至ル可キ虞アルカ故ニ
米國必ス其應援ヲ承諾セサルヲ得サル可シ是
レ蓋シモンロー氏ノ説ト大ニ異ナル所以ニシ
テ若レ此論ニ從フ時ハ亞米利加洲中ニ事アル
毎ニ米國必ス之ニ管セサルヲ得ス然ルハ兵
馬ニ勞スルノ期亦止ムヲナク許多ノ國害ヲ釀
成スルニ至ル可シト

米國ノ如キハ固ト其近隣ニ畏懼ス可キ者無キ
ニ因リ自護ノ理ヲ稱ヘ均勢ノ法ニ基キテ歐洲
各國ノ亞米利加洲中ニ土地ヲ擴メント欲スル

ヲ拒ム可キニ非サルナリ而ノ又當時米國政府
ハ苟モ亞米利加洲中ノ一國ニ共和政治ノ政体
ヲ變シ立君ノ政体ト為サントスル者アレハ已
レノ政体ニ危害アルヲ名ト為シ以テ他國ノ内
事ニ關涉シテ其政体ノ變革ヲ妨ク可キノ説
アレ此説ハ歐洲各國獨裁ノ君主ライバク及ヒ
ウエロナニ會シ以テ歐洲中ニ共和政治ノ政体ヲ
設クルヲ妨阻セント議定セシヨリ更ニ一層非
理ナリトス可シ是レ歐洲ニ於テハ若レ此國ニ
共和政治ノ政体ヲ立ル時ハ彼國ノ獨裁政府ノ

為メ忽チ現ニ危害ヲ生スルヲアリト雖モ亞米利加洲ニ於テハ縱令其一部ニ立君ノ國アルモ米國ノ為メ強テ危害アリニ非ハレハナリ此ニ由テ之ヲ考フレハ若シ歐洲各國亞米利加洲各國ノ内事ニ關涉シ威カヲ以テ強テ其共和政治ノ政ヲ變セント謀ルニアラハ米國政府力ヲ竭クシテ其關涉ヲ防クイ最モ正理ニ合ヒ即チ國タルノ道ヲ盡スト謂フ可シト雖モ其他ノ事故摩ヘハ南亞米利加洲ニ植民開墾等類ニ付テハ米國政府敢テ歐洲各國ノ處置ヲ拒ムノ理無ク若シ之ヲ拒ム時ハ

猶歐洲獨裁君主兵カヲ以テ強テ他國ノ内事ニ關涉シ其人民自由ノ說ヲ稱フル黨ヲ暴壓セシニ彷彿タル者ト謂フ可シ

第四十八條

從來此國ヨリ彼國ノ内事ニ關涉スルヲ以テ國際法ノ定則ト為サント欲セシヨリ到底其應驗ニ至レリ左ノ如クナルニ至レリ

三 英國ハ專ラ關涉ノ說ヲ拒ムカ故ニ若シ其政府或ハ他國ノ時務ニ干預スルニアリト雖モ徒ラニ他國ノ内事ニ關涉スルニ

此國ニ於テ内事ニ關涉スルハ國際法ノ定則ト為サントシタル

非ス必ス他ニ其原由アルヲ辯解セリ故ニ
千八百二十六年英國政府當時ノ葡萄牙政
府ヨリ勢援ノ求ヲ受ケ従前ノ條約ニ循ヒ
兵ヲ出シテ葡ノ政府ヲ援ケドン・ミギユル
ヲ伐タシメタル時英國執政カンニング氏
其趣意ヲ釋テ曰ク英國ハ敢テ葡國ノ内事
ニ關涉シ強テ其立憲政体ヲ保持セシメン
トスルニ非ス唯千八百二十三年佛國政府
漫ニ西班牙ノ内事ニ關涉シテ其不羈ノ權
ヲ妨害セシニ因リ今者ノ事復タ更ニ葡國

ノ權ヲ害スルニ至ル可キノ虞アリ因テ之
ヲ預防ス可キ為メ英國ヨリ葡國ニ兵ヲ發
遣セシナリト

三 關涉ノ說ハ弱國ノミニ對シ實際ニ施
行セシ者ニシテ佛國ノ如キハ千八百三十
年及ヒ千八百四十八年二次ノ變亂ノ時他
國敢テ其内事ニ關涉セントセレトナク速
カニ其新政府ヲ認メタリ
三 佛國ハ固ト他國ノ其内事ニ關涉スル
ヲ許ルサ、レハ敢テ亦其國ヨリ他國ノ内

事ニ關涉ス可キノ道理ナシ

〔四〕 人民自由ノ政ト君主獨裁ノ政トハ互ニ防害アル者ナレハ若シ君主獨裁ノ國他國ノ人民自由ヲ得シト欲スルヲ厭シ又人民自由ノ國他國ノ獨裁黨ヲ討セント欲シ互ニ相關涉スル時ハ其騷亂止ムノ期ナカル可シ蓋シ歐洲中君主獨裁ノ國ト立憲政治ノ國ト其威勢相匹敵スルヲアレハ關涉ノ說雙方ノ便タル可キカ故ニ獨裁ノ君主敢テ獨リ其說ヲ主張スルノ理無カル可シ

ト雖凡現ニ其之ヲ主張セシニ因リ考フル時ハ歐洲中獨裁國ノ權力強大ニシテ且此說行ハルレハ其人民ヲ制壓スルニ已レノ為メ便ナリトセシ確證ナリ

〔五〕 他國ノ内事ニ關涉スルト雖凡其變亂ノ原由ヲ全ク除去スルヲ能ハス唯暫時之ヲ壓抑スルニ過キサルナリ故ニ終ニハ其變亂ヲ好ムノ意ヲシテ愈激烈ナラシムルノ害アリ譬ヘハ人ノ負債ヲ償還スルニ其期ヲ遅ウシ愈其息銀ヲ重カラシメテ終ニ

十八年三月比利時
國と荷蘭國との
和議の調停

ハ子孫ヲ塗炭ニ陷ラシムルニ至ルカ如シ

第四十九條

歐洲ノ五大國^{英 普 俄 法 奧} 嘗テ兵力ヲ用ヒ^ニ 尼達蘭ノ
内事ニ關涉セシ^テアリシカ此關涉ハ自カラ他
ノ關涉ト相異ナル所アリ抑^ニ 尼達蘭ハ其初メ維
也^ニ 納^ス十五^年ノ公會ニ於テ以前ノ荷蘭比利時及
ヒ其他ノ地ヲ合併シ之ヲ一大國ト爲^シテ尼達
蘭ノ王國ト名ケ佛蘭西日耳曼兩國ノ間ニ今在
セシノ以テ佛人ノ他國ヲ侵掠スルヲ防制セシ
メント國リシ者ナリ然ルニ其後十五年ヲ徑テ

佛國ニ内變生セン時比利時ノ人民亂ヲ起シテ
尼達蘭ノ政府ニ叛キシカ比利時ノ民ハ荷蘭^國
北部ノ民ト其人種法教等固ト相異ナルヲ以テ
尼達蘭ノ政府其亂ヲ鎮定スルヲ甚ク難キ景狀
ニ至レリ因テ尼達蘭王五大國ニ依リ其居間拍
和ヲ求メシヲ以テ五大國ハ先ツ雙方ニ勸メテ
停戦センメ然ル後二國ヲ分立セシムル條約ヲ
造テ終ニ兵力ヲ用ヒ強テ其條約ヲ遵守ヒシメ
タリ蓋シ此五大國ノ欽差等互ニ會議シテ終ニ
之ヲ決定シタル其討論ノ旨趣ハ近時ノ國際法

ヲ學ントスル者ノ為メ頗ル須要ノ事タルニ因
リ惠頓氏カ著ス所ノ國際法史中審カニ其顛末
ヲ記セリ讀者宜シク其書ニ就テ之ヲ看ル可シ
斯クテ比利時ハ遂ニ獨立ノ國トナリ永世中立
國タルノ權利ト義務トヲ得テ其人民佛ノ王子
ヲ迎ヘ其王ト為サント欲セシカ五大國之ヲ許
サス且五大國ノ說ニテスケルト河及ヒ比利時
ト荷蘭トニ通スル川渠ハ各國ノ船舶運漕ノ為
ノ之ヲ開キ且アントウルクノ港ハ千八百十四
年巴里斯ノ條約ヲ以テ定メタル如ク城塞ヲ築

ク可カラス又比利時ハ元來人民ノ變亂ニ因リ
立タル國ナレハ其版圖狹小タル可キノ定メヲ
為シタリ是レ蓋シ各國ノ人民互ニ變革ヲ為シ
得可キノ權アリト為ス說ト君主ノ之ヲ制厯シ
得可キノ權アリト為ス說ト此兩者ヲ適宜ニ相
調和シ以テ歐洲ノ平寧ヲ致スヲ得タル者ナリ
ト雖モ若シ比利時ノ變亂前ニ佛國ニ於テ人民
自カラ變革ヲ為シ得可キノ說ヲ唱ヘシト無キ
時ハ想フニ佛國政府比利時ノ變亂ニ關涉シテ
兵力ヲ用メ其人民ヲ制厯シ強テ荷蘭ノ附庸ニ

仁愛心未又法教ノ
故ニ必テ他國ノ内事ニ關
涉シタル例

復サシメタルナル可シ

第五十條

仁愛ノ心ニ基キ又ハ法教ノ故ヲ以テ他國ノ内
事ニ關涉スルハ事情已ムヲ得サルニ非レハ之
ヲ許ルス可カラス試ニ其例ヲ舉クルニ昔時歐
州ニ法教ノ亂アリシ時耶蘇新教ノ各國其勢力
舊教ノ國ニ及ハス動モスレハ之カ為メ壓服セ
ラル、ノ恐レアリ因テ互ニ合從シテ舊教ノ國
ニ敵シ且舊教國ノ人民中若シ新教ニ從フ黨ア
レハ其内事ニ關涉シテ此黨ニ助力セリ彼英ノ

女王エリサベスハ荷蘭人ノ西班牙ニ叛キタル
ヲ援ケ又クロムホルカ撒奎公ヲ脅シ以テ其ワ
ルデンセス新教黨中一派ノ名ヲ虐ヒシヲ止メシメタル
カ如キ皆自護ノ為メト法教ノ為メトヲ以テ已
ムヲ得ス他國ノ内事ニ關涉シタル者ナリ又近
世ニ至リ千八百二十七年英佛魯ノ三國希臘人
ノ土耳其ニ叛キシヲ援ケタルカ如キハ是レ仁
愛ノ情ニ出ル所ニシテ其緣由ヲ尋ルニ希臘ノ
人民嘗テ土耳其ノ苛政ニ苦シミ已ムヲ得ス兵
ヲ舉ケテ土耳其ニ叛キ殆ト獨立ノ状ヲ為スニ

至リシカ土耳其帝之ヲ制壓ス可キ策ニ盡キ埃
及ノ巴沙ヲ副王ト云メヘタトアリヲシテ兵ヲ
發シテ希臘ヲ討タシノ頗ル殘忍ノ處置ヲ極ノ
シ故ニ希臘人ハ其慘ニ堪ユル能ハズ英佛魯ニ
應援ヲ乞ヒタルヲ以テ三國之ヲ肯シテ兵ヲ出
シ千八百二十七年第十月二十日ナバリノニ於
テ一田ノ水戰ニ土耳其ノ軍艦ヲ全ク破滅シ繼
テ佛兵希臘ノ地ニ進入セシニ因リ土耳其及ヒ
埃及ノ兵皆其地ヲ退キテ希臘國終ニ獨立トナ
ルヲ得タリ惠頓氏之ヲ論シテ曰ク希臘ノ人民

ハ元ト土耳其ト教門ヲ異ニスルカ故ニ想フニ
其人民獨リ苛虐ノ政ニ苦シムノミニ非ス埃及
ノ兇猛ナル兵卒ノ為メ濫ニ裁殺セラル、ニ非
サレハ必ス埃及ニ押送セラレ奴隸トナリテ虐
使ヲ受クルニ至ル可シ故ニ英佛魯ノ三國之ニ
關涉シテ其人民ヲ救ヒクルハ實ニ仁愛ノ道ニ
基キ正義ニ協ヒシ處置ト謂フ可ク且此國自護
ノ為メ行フ可キ諸件ハ若シ彼國ヨリ救援ノ求
メヲ受クル時亦其國ヲ護スル為メ之ヲ行フヲ
得可キトノ確論ニ循フタル者ト謂フ可シ此ニ

由テ之ヲ謂ハ當時英佛魯ノ三國希臘人ヲ援ク
ル為メ互ニ結ビタル條約ノ書面ニ土國ノ内事
ニ關涉スルハ歐洲ノ靖寧及ヒ貿易ノ為メナル
旨ヲ辨解セシト雖此等ノ事ハ姑ク置キ唯其
仁愛ノ為メト守護ノ為メトラ以テ此三國ハ其
關涉ノ道理ニ背カサルヲ辨明スルニ足ル可シ
ト

第五十一條

抑モ前文ニ記セシカ如ク凡ソ獨立不羈ニシテ
自主ノ權ヲ有スル國ハ新古大小ノ別ナク又政

各國其權利
ノ同等ナキ

各國其位

体ノ如何ヲ問ハス皆其權利同等互格タル可キ
ノ理ナリト雖此國若シ彼國ニ優レル貿易上
ノ特利ヲ有シ又ハ朝廷ノ禮式ニ管シテ此國ノ
等位彼國ノ等位ニ先ツカ如キニ至テハ亦自
ラ等位ノ高下無キ能ハス
往時ハ歐洲各國ノ朝廷ニ於テ等位ノ事ニ管ス
ル禮式極メテ嚴密ノ制アリ然ルニ其禮式ヲ廢
セント為シクルハ千六百年代ニ至リ瑞典王
スタニスアドル五ス凡ソ各國ノ帝王ハ其等位
互ニ尊卑上下ノ別アル可カラスト為スノ説ヲ

唱ヘシヲ以テ其初トス而ソ又當時各國其國ニ
在留スル欽差公使及々其夫人等ヲシテ互ニ等
位ノ爭ヲ生スルヲカラシメ且此等ノ人ヲシ
テ其國其身ノ不敬ニ遇フタルヲ思念スルノ憾
ナカラシム可キ為メ皆細審ニ朝廷ノ禮式ヲ定
メタリ然レバ其議論分爭猶之ヲ制止スルヲ能
ハス殊ニ佛西二國ノ欽差ハ其相爭フヲ最モ甚
シ蓋シ其原由ヲ尋ルニ千五百年代ニ至ル迄ハ
嘗テ羅馬教皇ノ定メタル禮式ニ循ヒ佛國ノ等
位直ニ日耳曼帝國ノ次ニ在リ然ルニ查爾斯五

世日耳曼ノ帝位ト西班牙ノ王位トヲ一身ニ兼
有セシニ因リ西班牙國ハ其後復タ日耳曼ト分
立スルニ至ルト雖モ其國ノ王位猶他國ノ王位
ニ優レルヲ辯論シ以テ佛國ト爭端ヲ開キシニ
在テトレントノ法教會議ノ時其爭ヒ殊ニ甚シ
ク因テ佛人怒ヲ發シ若シ佛國ノ等位西國ノ下
ニ列スルノ論一定ニ歸スル時ハ以後佛國ハ羅
馬教皇ノ命ヲ遵奉セスト論スルニ至リ教皇已
ムヲ得ス佛ノ欽差ヲ其欽差即チ羅馬ノ欽差ニ
ニ在ノ次ニ列セシメ又西國ノ欽差ヲシテ之レ

ト相對セル高坐ニ即カシメ繼ニ其争ヲ息スルヲ得タリ

其後佛西ノ兩國等位ヲ争フノ念猶釋然タラサルカ故ニ千六百六十一年瑞典ノ新使節龍動府ニ來著セシ時同府ニ在留ノ各國欽差等列序ヲ正シ之ヲ迎ヘトセシカ佛西兩國ノ欽差復タ相争ノ念ヲ發シ雙方互ニ其徒者ヲシテ兵器ヲ携ヘシメテ出行シ既ニ佛ノ欽差英王ニ次テ其車ヲ列セントセシ際西人遽カニ大聲ヲ發シ呼噪シテ佛國欽差ノ馬ヲ驚カシ之ヲ排除シテ

自國ノ欽差ヲ其班位ニ列セシメタリ是ニ於テ佛人忽チ怒ヲ發シ西人ニ向ヒ發炮セシ故ニ西人モ亦之ニ應シテ發炮シ雙方ノ死者八人傷者四十人アルニ至レリ然ルニ西人ハ此紛争間佛國欽差ノ馬腿ヲ傷ケ其箭ヲ断チシニ因リ終ニ佛國欽差ニ先チ進行スルヲ得シカ佛王路易十四世之ヲ聞キ大ニ憤リ西國政府ニ迫リ之ヲ辯論シ遂ニ西國政府ヲシテ向後西佛ノ欽差互ニ等位執争ノ虞アル可キ禮式ノ時ハ必ス其欽差ヲ其場所ニ出スヲナカラシム可キノ布告ヲ為

セリ
古歐洲ノ規定ニ據レハ羅馬教皇各國ノ首位ヲ
占メ(耶蘇新教ノ諸國及ヒ魯西亞ハ法教ノ異ナ
レルヲ以テ敢テ羅馬教皇ノ首位ヲ認メス唯之
ヲ通常以太利ノ一國主ト看做スノミ)日耳曼帝
之ニ次キ其他總テ立君政体ノ國ハ共和政治ノ
國ニ先チ自主ノ國ハ半主ノ國ニ先チテ公侯ノ
國ヲ最下等トス因テ千五百四年羅馬教皇ヨリ
布告ヲ出シテ各國ノ等位ヲ定メクル其順序ハ
羅馬帝即チ日耳曼帝ノ稱羅馬王日耳曼帝ノ稱佛蘭西王西班

牙亞拉岡葡萄牙英吉利西西里蘇格蘭匈牙利
瓦居比路波希米波蘭大尼當時瑞典諸國ハ王威
尼斯共和政治國北利達尼不干的侯巴威里亞薩
索尼巴郎丁堡ノ選侯奧地利公撒歪侯佛拔公等
ナリ

又近時ヘフトル氏ノ說ヲ以テ定メタル各國ノ
位ハ其畧左ノ如シ

第一 王禮ヲ有スル各國ハ其位王禮ヲ有セ
サル國ノ上ニ在リトス蓋シ王禮トハ第一等
ノ使節ヲ派出スルノ權帝王ノ稱號冠冕等ヲ

用フルノ權ヲ云々帝王、公、黑西ノ選侯、瑞西共和政治、米利堅共和政治、日耳曼會盟國等ハ即チ此王禮ヲ有スル者トス

第二 位ヲ同スル各國ノ間ニ於テハ其權利互ニ差異アル無ク其順序ハ條約又ハ習慣ヲ以テ之ヲ定メ且帝號ト王號ト其位ヲ同ウスルハ通常王號ヲ用フル者間帝號ヲ帶用スルニ因テ之ヲ知ル可シ而シテ其帝王ハ公侯又ハ共和政治ノ上ニ位シテ共和政治ト王禮ヲ有スル國ト其間ノ班位ハ尚未タ判然一定ノ

論ナシト雖ハ半主ノ國及ヒ他國ノ守護ヲ受ル國ハ其順序自主ノ國ノ下ニ在リトス而シテ若シ甲國乙國ノ承諾ヲ得スシテ丙國ノ班位ヲ乙國ノ上ニ出シムルアル時ハ即チ乙國ニ對シ不敬ノ處置タルカ故ニ乙國之ヲ論スルヲ得可シ

第三 國ノ一旦得タル等位ハ其政体ノ變革因リ之ヲ失ハサルヲ常トス

斯ク近時ニ於テモ各國皆等位無キニ非スト雖
凡目今ハ其等位ノ別次第ニ減シ終ニ萬國全ク

同等ナラントスル勢ニ至レリ是ヲ以テ貿易上
ノ特利モ漸ヲ以テ消盡シ新タニ結フ條約ニハ
彼國ノ權利ヲシテ此國ノ權利ニ勝ラシムル
ナク又同等ナル使節ノ班位ハ在留期限ノ長短
ニ因テ之ヲ定ムルニ至リ往時英國其近海ニ於
テ特ニ他國ニ勝レル權柄ヲ有シ自國ヲ尊敬セ
シメント為シクルカ如キ誘散ヲ示スノ風習ハ
方今大約廢棄スルニ至レリ

三都

書林

西京寺町通松原上ル	勝村治右衛門
同 烏丸寺小路上ル	吉田喜平治
大坂心齋橋安堂寺町	田中太右衛門
東京日本橋通二丁目	北畠茂兵衛
同 通二丁目	稻田佐兵衛
同 川瀬石町	村上勘兵衛
同 芝大神宮前	山中市兵衛
同 横山町二丁目	出雲寺萬次郎
同 横山町三丁目	太田金右衛門
同 淺草茅町二丁目	北澤伊八
同 本石町二丁目	江島喜兵衛
同 大傳馬町二丁目	三家村佐平版

箕作
麟祥譯

國際法

一名萬國公法
上編

二之



40667

329
20
2